

第4節 ジェンダーと学習観

【「①女子は勉強をがんばらなくてもいい」が16.5%。男子のほうがそう答えた割合が大きい。】(図2-8)

Q14

あなたは、つぎの意見をどう思いますか。1)～7)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(ここでは、4)、5)、6)、7)を分析する)

女子の教育歴の研究の中で、児童・生徒自身のジェンダー観(男性観・女性観)がレッテル貼りの機能を果たし、女子は男子とは異なる量・異なる方法の学習をするようになるということが議論されている。

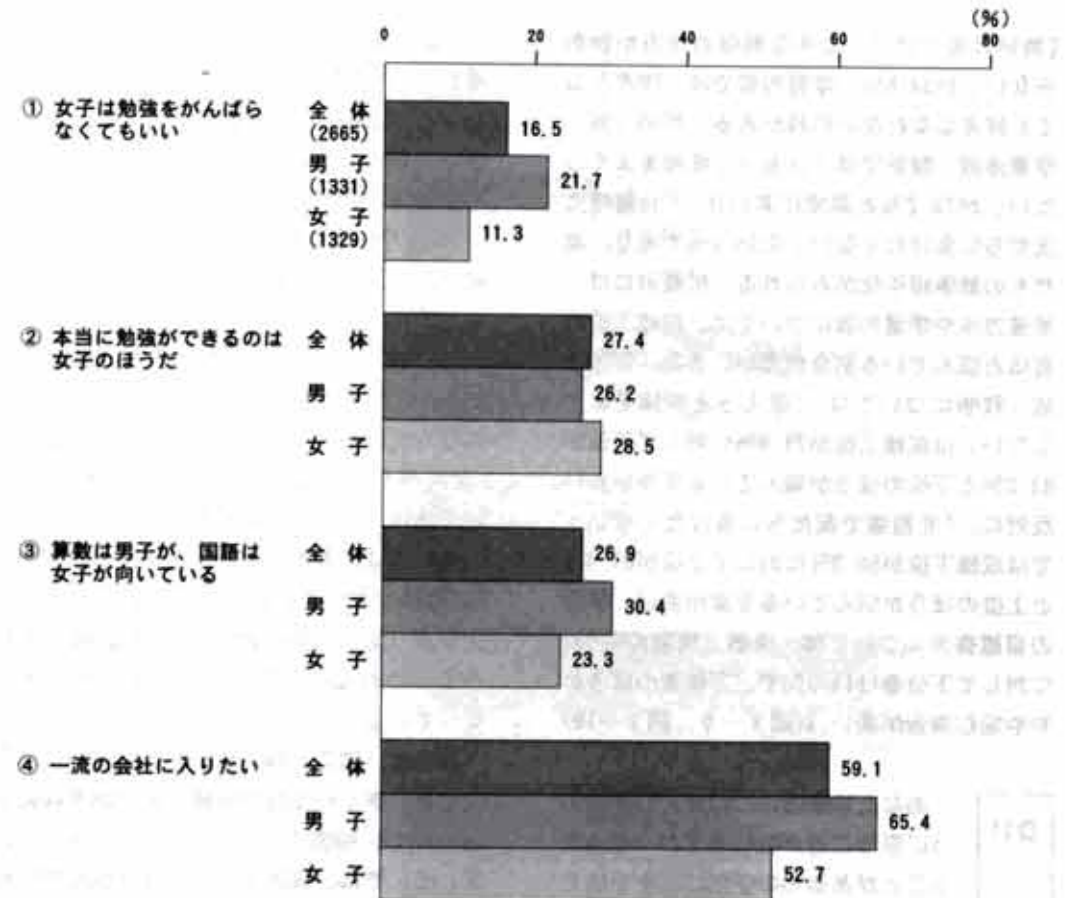
図2-8は、性別能力観に関する質問を尋

ねた結果を示してある。

この図を見ると「①女子は勉強をがんばらなくてもいい」が16.5%と10%台になっている。この傾向には性差があり、男子が21.7%、女子が11.3%である。つづいて、「②本当に勉強ができるのは女子のほうだ」は27.4%が肯定しているが、男子が26.2%、女子が28.5%とわずかに女子のほうが女子の「本当の学力」を高く評価しているにとどまる。

「③算数は男子が、国語は女子が向いている」は26.9%であり、男子のほうが女子よりも教科の適性の性差があるとみている。「④一流の会社に入りたい」は全体が59.1%であるのに対して、男子は65.4%、女子は52.7%と男子のほうが大組織への参入を望んでいる。

図2-8 ジェンダーと学習観



注1) 数値は「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計。
注2) ()内はサンプル数。